

特定非営利活動法人絆

2020年度 事業報告書

事業実施の方針

- ・ 「困った時はおたがいさま」の心で助け合い、助け合いの輪を地域に広げる。
- ・ 一人ひとりの困難に向き合い、その人がその人らしく生活できるよう、心に寄り添う支援を行う。
- ・ 世代を超えた人と人との絆を大切にし、互いに学び合い、支え合いながら、生きがいや自己の実現につなげる。

事業の実施に関する事項

I. 特定非営利活動に係る事業

(1) 在宅福祉サービスに関する事業

① たすけあい事業

活動の想い 地域の方の様々なお困りごとに、きめ細やかに対応したい

根拠事業	自主事業		
担当	たすけあい 絆	主任	望月 真理
	ヘルパーステーション 絆	従事者人数	絆会員 57人
実施日	通年随時 年間 2,329件	受益者	絆会員 89人
実施場所	東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 地域たすけあいセンター 絆		

事業概要

現行の公的制度では対応ができない家事援助・身体介護・話し相手・子育て支援・代行などの在宅支援や、家で一人では心配な方などに、気軽に通える場の提供などを行う。

2020年度 目標

- ・困っている方が気軽に相談できるよう、絆の「たすけあい」の周知を図る。
- ・制度のハザマを埋める暮らしの中の「困りごと」に柔軟に対応し、ご利用者および地域の皆さんに頼りにされる事業所を目指す。

活動内容・得られた成果

- ・町内唯一のたすけあい事業所として認知度が高まり、ケアマネージャー等から、たすけあいを目的とした相談や依頼を受けることが増えた。
- ・制度をお使いのご利用者から、保険的な入会といった安心を求めたニーズもあった。
- ・コロナ禍においても、日常生活の継続に欠かせない支援においては、最大限の対策をもって対応した。

残された課題

- ・更なる事業の周知とニーズの発掘。

2021年度の目標

- ・絆の会報やパンフレットを常に持ち歩き、新たなご利用者・活動者・賛助会員の発掘に努める。
- ・制度のハザマを埋める役割を意識し、サービス内容の具体例を示すなどして、たすけあいの周知を図る。

(1) 在宅福祉サービスに関する事業

②東浦町委託事業（ごみ出し支援）

活動の想い ごみ出しを通して、困ったときに気軽に助けあえる、身近な地域のつながりを築きたい

根拠事業	東浦町委託（環境課）		
担当	たすけあい 絆	担当者	高崎 伝
		従事者人数	絆会員・ボランティア 20人
実施日	毎週火・木曜日 朝 年間 1,829件	受益者	東浦町内ご利用対象者 54人
実施場所	東浦町 ご利用者宅		

事業概要

避難行動要支援者名簿に登録されている、もしくは65歳以上の方のみの世帯で、燃えるごみを所定のごみステーションまで持ち出すことが困難な方へ、ごみ出しを行う。

2020年度 目標

ごみ出しの需要が少しずつ増えており、今後もご利用者や支援者・環境課とのコミュニケーションをしっかりとりながら的確に支援を行う。

活動内容・得られた成果

昨年と比べて依頼件数が3割近く増えており、ごみ出しのニーズが高まっているのを感じる。近所とはいえ、朝の忙しい時間での支援は大変とは思いますが、ボランティアの皆さんの善意に支えられている。ご利用者からの感謝の気持ちが、ボランティアさんの大きな励みとなっている。

残された課題

増え続ける依頼に対し担い手が不足し、ボランティアさん一人ひとりの負担が大きくなっている。ご利用者の近所の方に協力をお願いできるよう、絆内だけではなく、関係機関等とも連携を図り、担い手発掘のしくみを作る。

2021年度の目標

地域にアンテナをめぐらし、より身近な地域でのボランティア発掘システムを構築する。



(1) 在宅福祉サービスに関する事業

③東浦町委託事業（子育て支援ヘルパー）

活動の想い 妊娠中や子育てにおける不安や悩みに寄り添い、親子とも健やかな子育てを応援したい

根拠事業	東浦町委託（児童課）		
担当	たすけあい 絆	担当者	友永 涼子
		従事者人数	絆会員 15人
実施日	通年随時 年間 237件	受益者	東浦町内ご利用対象者 14人
実施場所	東浦町 利用者宅 または 病院等		

事業概要

妊婦または乳幼児のいる母親が、病気などで家事・育児が困難な際にヘルパーを派遣し、子育てを支援する。

2020年度 目標

妊娠中や子育て中の不安を軽減し、安心して子育てができるように支援する。

活動内容・得られた成果

2年あまり委託依頼がなかったが、制度が利用しやすくなった影響を受け、依頼が急増。子育て経験のあるヘルパーが訪問し、家事負担、精神的不安を軽減させることができた。また、対応できる人材を発掘することができた。

残された課題

支援期間が決められているため、継続的支援が必要なご利用者であっても支援終了となることがある。

2021年度の目標

安心して子育てできるよう支援すると共に、委託契約終了後にも支援の必要な方を他機関につなぐなど、切れ目のない伴走型の支援を行う。



(2) 移送サービスに関する事業

①移送サービス事業（福祉有償運送）

活動の想い 高齢になっても、どんなに重い障がいがあっても安心・安全に外出できるようサポートしたい

根拠事業	自主事業		
担当	たすけあい 絆	主任	望月 真理
	ヘルパーステーション 絆	従事者人数	絆会員 39人
実施日	通年随時 年間 4,297件	受益者	絆会員のご利用対象者 170人
実施場所	東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 病院、施設等		

事業概要

通院や買い物、社会参加など、外出の際に公共交通機関を利用して出かけられない方へ、福祉有償運送サービスを行う。



2020年度 目標

日常生活を支える通院や買い物等でお困りの方に対し、安心・安全な移送サービスを提供する。

運転者の質の向上を目指し、安全運転講習を定期的に行う。

活動内容・得られた成果

- ・新型コロナウイルスの感染リスクを減らすため、安全運転講習は開催を見合わせた。
- ・車内に予備のマスクを配備したり、窓を数センチ開けるなどの感染予防対策を行いながら、定期的な依頼の他、急な通院等にもできる限り対応することができた。

残された課題

- ・運転者の質の安定のため、安全運転講習の定期的な実施が必要。
- ・元来の担い手不足に加え、活動者の高齢化に伴い、人材の発掘・育成が急務となっている。

2021年度の目標

- ・安全運転講習を行い、運転者の質の向上を目指すと共に、新たな担い手を育成する。
- ・継続して感染対策を行いつつ、安心・安全な移送サービスを提供する。

(3) 地域ふれあい事業

①福祉拠点普及促進コーディネート事業

活動の想い 多世代が気軽に集い、気軽に活躍できる居場所づくりのために、人と人をつなぎたい

根拠事業	東浦町委託（ふくし課）		
担当	特定非営利活動法人 絆	担当者	山崎 紀恵子
		従事者人数	絆会員 4人
実施日	通年随時	受益者	地域の方
実施場所	地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、ラソ・プラザ等		

事業概要

地域住民が担い手として活動する場の確保、人材育成、居場所に関する相談・研修・啓発・協議体への参加協力を行う。

2020年度 目標

- ・居場所づくりの相談や研修の依頼を積極的に受ける。
- ・2つ目の常設居場所「ラソ・プラザ」の事例を通して、居場所の可能性を探る。
- ・食を通じた居場所の交流と情報交換の仕組みをつくる。

活動内容・得られた成果

- ・感染対策を講じながら、個別の相談対応や、15人規模の居場所づくり講習会を2回行い、好評を得た。
- ・一年を通して、愛知県の「高齢者地域コミュニティ参加促進事業」を引き受け、様々な企画が実行できたことで、新たな参加者や支援者の確保につながった。また、居場所の新たな可能性に気づかされた。
- ・コロナ禍でも、「食を通じた居場所のゆるい情報交換会」を開催することができ、互いの感染予防の意識を高め、今後の会の存続も確認することができた。

残された課題

福祉拠点（居場所）に関心をもつ人を増やすために、受け身の相談や研修以外にも、企画を考えて実行する。

2021年度の目標

- ・地域住民に対し居場所への関心を高め、参加する人、活躍する人、運営する人材を増やすため、居場所セミナーや、課題に取り組むワークショップを開催する。
- ・定期的な相談日を設け、相談しやすい環境や支援体制をつくる。

(3) 地域ふれあい事業

②常設居場所事業（地域の縁側 グリーン・ラソ）

活動の想い 赤ちゃんから高齢の方まで、誰にとっても居心地のよい居場所を提供したい

根拠事業	自主事業		
担当	特定非営利活動法人 絆	担当者	石原 理奈
		従事者人数	絆会員・ボランティア 87人
実施日	月～金曜日 年間 176日	受益者	地域の方 3,986人(延べ)
実施場所	地域の縁側 グリーン・ラソ		

事業概要

0～100歳、どなたでも利用できる、自分らしく活躍できる居場所を提供するとともに、絆を知っていただく機会を設ける。

2020年度 目標

- ・緒川地区のコミュニティの行事には開館し、地域の行事に積極的に参加する。
- ・ランチや夜カフェなどの周知、ボランティアしやすい環境づくりに力を入れていく。

活動内容・得られた成果

- ・新型コロナウイルスの影響でイベントの自粛・規制があり、ご利用者も減少した。コロナ禍でも開館できるよう知恵を出し合い、対策しながらできる限り開所した。
- ・愛知県の「高齢者地域コミュニティ参加促進事業」を受け、新たな参加者の発掘やプログラムの挑戦をした。特に、囲碁・将棋・麻雀のグリーン・ラソ杯など、ご利用者主体のイベント開催のきっかけとなった。
- ・ボランティア内で委員会を立ち上げ、意見交換ができた。



楽しい麻雀の後は、ご自分たちで消毒していただいています

残された課題

- ・ボランティア（当番）の内容が複雑で、特に高齢の方には敷居が高いと敬遠されてしまう。わかりやすいマニュアル作りや、仕事の整理が必要。
- ・子育て世代が参加しやすい情報発信や、入りやすい雰囲気づくり。

2021年度の目標

- ・居場所の役割の周知や、新たな当番さん獲得のために、チラシを作りPRする。
- ・土曜・日曜にも開館できるような人材の発掘。

(3) 地域ふれあい事業

③常設居場所事業（地域の縁側 ラソ・プラザ）

活動の想い 地域の方がつい寄りたくなるような、おいしい食事と心地よい居場所を提供したい

根拠事業	自主事業		
担当	特定非営利活動法人 絆	担当者	友永 涼子
		従事者人数	絆会員・ボランティア 35人
実施日	火～金曜日 年間 166日	受益者	地域の方 5,620人（延べ）
実施場所	地域の縁側 ラソ・プラザ		

事業概要

食を介して、地域の方が気軽に集まれる居場所を提供するとともに、ボランティアとしてどなたでも自分らしく活躍できる場を設ける。

2020年度 目標

- ・地域の方に常設居場所として周知し、催しのPRをタイムリーに行う。
- ・ボランティアさんが主体的に関われる雰囲気づくりを行い、活躍の場としてのPRにも力を入れていく。

活動内容・得られた成果

コロナ禍で、緊急事態宣言中の一か月半の閉館以外はオープンすることができた。再開を楽しみにして下さる常連さんの存在も支えとなり、ボランティアさんとともに感染予防の対策を講じ、安心して食事を楽しんでいただける環境づくりを行った。

残された課題

- ・食堂なのか居場所なのかがわかりにくく、中途半端な印象が持たれている。
- ・地域の方に、“誰もが寄れる居場所”としての周知をしていくことと、新たな取り組みが必要。



ボランティアさん手作りの感染予防グッズでお出迎え

2021年度の目標

- ・ラソ・プラザを知ってもらうためにチラシを作り、参加者や支援者を増やす。
- ・ラソ・プラザをより有効に利用してもらえるよう、アンケートをとって対策を考える。
- ・土曜・日曜にも開館できるような人材の発掘。

(3) 地域ふれあい事業

④ 居場所事業

活動の想い どなたでも利用できる、活躍できる居場所を提供するとともに、絆の活動を知っていただくご縁づくりの役割を担いたい

	さをり織り教室	ラソファーム
根拠事業	自主事業	
担当者	特定非営利活動法人 絆／成田 泉	特定非営利活動法人 絆／鈴木 真由美
従事者人数	絆会員 1人	絆会員・ボランティア 8人
実施日	火・木・土曜日 年間 89日	通年随時 年間 215日
受益者	絆会員 57人	地域の方 67人
実施場所	さをり工房 あんきにきて家	ラソファーム ～みんなの農園～

	コミュニティカフェ 風喫茶	お茶を楽しむ会
根拠事業	自主事業	
担当者	特定非営利活動法人 絆／友永 涼子	特定非営利活動法人 絆／永井 夕子
従事者人数	絆会員・ボランティア 18人	絆会員・ボランティア 5人
実施日	第1火曜・第3金曜日 年間 20日	月1回水曜日 年間 10日
受益者	地域の方	地域の方
実施場所	地域たすけあいセンター絆 風ハウス	

事業概要

- ・「さをり織り教室」「風喫茶」「お茶を楽しむ会」は、どなたでも利用できる居場所を提供する。絆の建物近くにあることで、絆の活動を身近に感じてもらう。
- ・「ラソファーム」は、青空の下の居場所として、どなたでも参加できる地域農園のしくみづくりと畑の運営を、社会福協議会との協同で行う。



2020 年度 目標

- ・「さをり織り教室」「風喫茶」「お茶を楽しむ会」各事業を通じて、地域の方や、通所のご利用者がリフレッシュし、元気になれる居場所を作る。
- ・「ラソファーム」では、労働型の居場所として、既存の居場所には関心の薄い層の方にも参加してもらえるよう周知を図る。また、地域農園としての特色を活かすべく、収穫祭や交流会などのイベントを行い、伝統野菜の栽培といった新たなことにも挑戦する。

活動内容・得られた成果

- ・「さをり織り教室」新型コロナウイルスの影響で自粛期間もあったが、感染予防対策しながら6月より再開。徐々に参加者も戻り、県の高齢者地域コミュニティ参加促進事業も開催した。
- ・「ラソファーム」新型コロナウイルスの自粛期間中においても、屋外作業のために休むことなく活動を続け、既存の居場所にはない特性を活かすことができた。また、伝統野菜の講座と関連付け、大高菜の種の配付を行った。放課後等デイサービス はぐの児童にも、昨年以上に主体的に関わってもらった。
- ・「風喫茶」「お茶を楽しむ会」通所のご利用者が、いつもと少し違った環境で、くつろぐ時間をもてた。

残された課題

- ・「さをり織り教室」コロナ禍で、絆まつりでのワークショップ等も中止となり、地域の方への発信が十分にできなかった。
- ・「ラソファーム」収穫祭などのイベントは自粛、新たな層への呼びかけも不十分に終わってしまった。なお、2021年度は社会福祉協議会が撤退し、絆単独での運営となる。
- ・「風喫茶」「お茶を楽しむ会」新型コロナ自粛の影響で、地域の方の来訪が少なかった。

2021 年度の目標

- ・「さをり織り教室」引き続き、新型コロナ感染予防に配慮しながら居場所を継続しつつ、地域の方に絆の事業に関心を持ってもらえるようにする。
- ・「ラソファーム」収穫した野菜を加工して、多くの人が関わることのできる商品開発を試みる。



地域の子どもたちと、夏野菜の収穫体験（ラソファームにて）

(4) 介護保険法に基づく事業

①訪問介護・介護予防訪問介護相当サービス・訪問型サービスA

活動の思い いつまでも自律した生活が送れるよう、ご利用者の想いを聴きながら柔軟な支援をしたい

根拠事業	介護保険法		
担当	ヘルパーステーション 絆	主任	望月 真理
		従事者人数	会員 52人
実施日	通年随時 年間 10,622件	受益者	東浦町及び近隣市町の方 173人
実施場所	東浦町及び近隣市町のご利用者宅		

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う。

2020年度 目標

- ・ご利用者のニーズの変化に迅速に対応できるよう、定期的なモニタリングを実施するとともに、事例検討会を多く開催し、チーム支援に力を入れる。
- ・職員研修を充実させ、総合的に質の高いヘルパーステーションを目指す。

活動内容・得られた成果

- ・コロナ禍で、大勢が集まる活動者会議が開催できないため、少人数の事例検討会議を数多く行った。支援内容の確認やチーム支援の意識統一をはかり、様々な気づきを共有した。
- ・ご利用者やその家族に丁寧に向き合い、支援内容や手順の確認のため、モニタリングに力を注いだ。

残された課題

活動者全体のスキルアップのための職員研修にインターネット研修を導入したが、十分に活用できなかった。



2021年度 目標

- ・モニタリングを強化し、ご利用者の声を聴き、迅速に支援に活かす。
- ・ご利用者全員の事例検討会議を行い、統一した支援が行えるようにする。
- ・個別研修計画に基づき職員研修を行い、ヘルパーステーション全体の底上げを図る。

(4) 介護保険法に基づく事業

②通所介護・介護予防通所介護相当サービス

活動の想い その方の「できること、やってみたいこと」を大切に、自分の居場所として楽しく過ごしてもらいたい

根拠事業	介護保険法		
担当	デイサービスセンター 絆	主任	竹内 恵子
		従事者人数	絆会員 34人
実施日	月～金曜日 年間 4,636件	受益者	東浦町及び近隣市町の方 52人
実施場所	地域たすけあいセンター 絆		

事業概要

自己選択、自己決定の仕組みを大切に、ご利用者お一人ひとりの意思を尊重し、生きがいのある楽しい一日になるよう支援を行う。

2020年度 目標

- ・ご利用者の「自分らしく」を大切に、一人ひとりの能力を引き出し、生活意欲に繋げる。
- ・必要なサービスを察知できるよう、スタッフのスキルアップも目指す。



先生と楽しい予防運動

活動内容・得られた成果

- ・コロナ禍で外出やボランティアの自粛など制限のある中、ご自分で自主的に一日の目標を立て、取り組むご利用者が増えた。
- ・機能訓練の見直しを話し合い、作業療法士の指導を取り入れたマニュアル作成ができた。

残された課題

- ・コロナ禍でも安心安全に対策を考えながら、いろいろな行事に取り組む。
- ・ご利用者の支援を行うにあたり、ご家族の協力や関わりを持っていただく。不安や心配事の相談ができる機会を考えていく。

2021年度 目標

- ・一人一人の「できる」「好き」「得意」を活かして、役割と心地よい居場所をつくる。
- ・意見交換をしっかりと行い、チーム力で課題解決に取り組む。

(5) 障がい福祉サービス事業

① 居宅介護・重度訪問介護・同行援護・行動援護

活動の想い どんなに重い障害があっても「自宅で暮らしたい」という気持ちに寄り添う支援をしたい

根拠事業	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律		
担当	ヘルパーステーション 絆	主任	望月 真理
		従事者人数	絆会員 48人
実施日	通年随時 年間 4,053件	受益者	東浦町及び近隣市町の方 38人
実施場所	東浦町及び近隣市町の利用者宅		

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う。

2020年度 目標

- ・定期的なモニタリングを実施し、変化するニーズの把握に努めるとともに、事例検討会を多く開催し、チーム支援に尽力する。
- ・地域の中でご利用者およびご家族が安心して生活できるよう、地域全体で支える意識を持ち、他事業所・多職種との連携を図る。

活動内容・得られた成果

- ・コロナ禍、免疫力の弱い方や、マスクを着用していただくことが難しい支援などがあるため、感染予防対策に十分に留意しながら支援を行った。
- ・モニタリングは、電話での聞き取りで行うこともあった。自宅にこもる生活を余儀なくされたご利用者の想いを聴き、社会とつながることの大切さを再認識した。

残された課題

- ・これまで定期的に行われていた担当者会議等が、コロナ禍において中止や延期が多くなり、多職種連携が図りづらくなった。対面しなくても情報共有できるネットワーク構築が急務。
- ・職員研修（インターネット研修）の仕組みを整え、全員が取り組めるようにする。

2021年度の目標

定期的なモニタリングと事例検討会議を開催し、チーム支援を強化する。

(5) 障がい福祉サービス事業

②生活介護

活動の想い どんな障がいがあっても、その人らしく過ごせる居場所でありたい

根拠事業	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律		
担当	さくさく工房 絆	主任	亀石 綾穂
		従事者人数	絆会員 30人
実施日	月～金曜日 年間 3,076件	受益者	東浦町及び近隣市町の方 27人
実施場所	地域たすけあいセンター 絆		

事業概要

- ・日常的に介護を必要とする方に対して、日中活動を行う。
- ・自己選択・自己決定を大切にし、ご利用者の気持ちに寄り添う支援を行う。

2020年度 目標

箸袋作り・さくさくランドリー・クッキー作りなど、仕事に通じる活動を通して、ご利用者の「できる力」を引き出し、生きがいや楽しみを見つけられる支援を行う。

活動内容・得られた成果

- ・コロナ禍のため、箸袋作り等できないこともあったが、さくさくランドリーはみんなが参加できる仕事として定着した。
- ・クッキー作りでは新しい味を追加し、イベントに合わせたパッケージ（クリスマス・バレンタイン等）を作るなど、新しいことにも挑戦した。

残された課題

仕事に積極的に参加される方がいる一方、「できない」「やりたくない」と避ける方もいらっしゃる。自己選択・自己決定を尊重しながらも、皆さんが「私は、これならできる」と自信を持っていただけるような活動を、一緒に考えていきたい。



仕事でコツコツ貯めたお金で
ぶどう狩りに出かけました

2021年度 目標

「やりたい」「やってみたい」を増やし、一歩前進。

(6) 地域生活支援事業

移動支援

活動の思い 日々の暮らしの活力となるような、楽しい時間を過ごしていただきたい

根拠事業	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律		
担当	ヘルパーステーション 絆	主任	望月 真理
		従事者人数	絆会員 54人
実施日	通年随時 年間 1,128件	受益者	東浦町及び近隣市町の方 67人
実施場所	東浦町及び近隣市町の利用者宅 または 外出先		

事業概要

ご利用者の意思を尊重し、気持ちに寄り添いながら、その人らしく過ごせる余暇支援を行う。

2020年度 目標

ご利用者の楽しみ・生きがい・希望となるような外出を、安心・安全に実現できるよう支援する。

活動内容・得られた成果

- ・感染予防を徹底し、ご利用者にも制限等にご協力いただきながら、日常生活や余暇活動を安心して楽しく過ごせるよう支援した。
- ・不要不急とみなされ制限をされてしまったが、ご利用者にとって外出支援がいかに大切であるかを再確認した。

残された課題

ご利用者にとって、少しでも楽しみを見つけられるよう内容を考え、できる限り依頼を受けてはきたが、外出に大きな制限がある社会情勢であり活動は減っている。コロナ禍で、いかに安心安全な支援を行うことができるか、模索していく。

2021年度の目標

- ・行動制限の範囲内でも楽しみが見つけれられるよう工夫をし、感染対策を取り支援をする。
- ・社会資源をフル活用し、多職種と連携を図る。

II. その他の事業

物品販売に関する事業

常設ふれあいマーケット・まつり模擬店

活動の想い それぞれにできること、得意なことで、まちづくりに参加する人を増やしたい

	常設ふれあいマーケット	まつり模擬店
根拠事業	自主事業	
担当／責任者	特定非営利活動法人 絆／山崎 紀恵子	特定非営利活動法人 絆／村瀬 文康
従事者人数		
実施日	月～金曜日	コロナ禍のため実施できず
受益者	地域の方	地域の方
実施場所	地域たすけあいセンター 絆・ 地域の縁側 グリーン・ラソ 地域の縁側 ラソ・プラザ	地域たすけあいセンター 絆 於大公園 東浦町福祉センター

事業概要

- ・季節の野菜や手作り品の販売、リサイクル品の寄付を通して、活躍できる場を提供する。
- ・地域の方が絆を知るきっかけづくりや、気軽に立ち寄り楽しめる居場所づくりを行う。

2020 年度 目標

- ・地域の人に知ってもらえるよう、企画やPRを充実する。
- ・物品の整理に心がけ、地域の方にもお立ち寄りいただき、交流が図れるよう雰囲気づくりに努める。



活動内容・得られた成果

- ・季節の果物や野菜の販売は、絆内やグリーン・ラソで地域の方々に大変好評だった。
- ・知り合いの知り合いという方々からも物品のご寄付をいただく等、新たな嬉しい出会いがあった。

残された課題

- ・リサイクル品が寄付しやすい環境づくりと、地域の方への更なるPR。
- ・物品の入れ替えや、見やすい工夫を日常的に行い、楽しんで商品を選んでいただく。

2021 年度 目標

物品販売を、新たな出会いにつなげよう！

Ⅲ. 委員会活動

①委員会

リスク予防向上委員会

委員長	藤森 和美	委員数	5名	開催回数	年間 3回
-----	-------	-----	----	------	-------

活動内容・得られた成果

- ・コロナ禍のため、計画していた春（地震）と秋（火災）の避難訓練を中止した。
- ・ヒヤリハットについては、提出促進と、部署での情報共有と対策の徹底を呼びかけた。

残された課題

- ・ヒヤリハット事例の提出枚数の少なさと、対策の検証などの後フォローができていない。書きやすい書式の検討も必要。
- ・委員会発足以来8年、同じメンバーで取り組んでいたが、次年度はメンバーを一新し、部署間の情報共有や検証を強化していく。

チャレンジアップ委員会

委員長	宮地 智	委員数	6名	開催回数	年間 5回
-----	------	-----	----	------	-------

活動内容・得られた成果

今年度も昨年同様、講師による研修会を予定していたが、コロナ禍で中止となった。代案として、お茶の水ケア学院のネット研修を企画し、10月・11月にフォローアップ研修2回を開催した。参加人数は少なかったが、今後の講習会の在り方の一つとして成果となった。

残された課題

多様なスキルアップ研修の充実化、意見交換や、話し合う・学び合う機会を作っていくこと。

まつり委員会

委員長	村瀬 文康	委員数		開催回数	年間 0回
-----	-------	-----	--	------	-------

活動内容・得られた成果

新型コロナウイルスの影響で、すべて中止となった。

残された課題

ウイズコロナの時代における、各まつりへの取り組み方の見直し。

②プロジェクト活動・自主活動

感染症対策プロジェクト

リーダー	石川 美恵	メンバー	7名	開催回数	年間 7回
------	-------	------	----	------	-------

活動内容・得られた成果

- ・コロナウイルス感染症が広がり、より感染症を意識する必要性が高まった。4月にプロジェクトを立ち上げ、はじめに事務所内での消毒や換気の方法を話し合い、考え方をまとめた。
- ・各部署のコロナウイルス感染症対策マニュアルや発熱時のフローチャートを作成し、感染を防ぎながらどのように絆を利用してもらうのかを考え、まとめることができた。
- ・厨房の衛生管理について課題を出し、衛生・不衛生ゾーン分け等の改善を行った。

残された課題

- ・作成したコロナウイルス感染症マニュアルや発熱時のフローチャートが、状況に合わないケースが出ているため、見直しが必要である。
- ・厨房の衛生管理チェックリストを作成したことによる効果や今後の課題を出し、改善につなげたい。

総会資料改革プロジェクト

リーダー	鈴木 真由美	メンバー	5名	開催回数	年間 3回
------	--------	------	----	------	-------

活動内容・得られた成果

絆の理念や取り組みがより身近に感じられ、各事業の成果をしっかりとアピールできる総会資料へのレベルアップを図る目的で、期間限定のプロジェクトを立ち上げた。

残された課題

2021年度の総会資料の評価をしっかりと行い、次年度へつなげていく。

YouTube ラソチャンネル（動画配信）

活動内容・得られた成果

- ・絆の様子や活動を動画で配信し、広く一般の方にPRした。
- ・10月の配信開始から半年で、予告動画も含めて10本の動画を配信した。



記念すべき初動画！

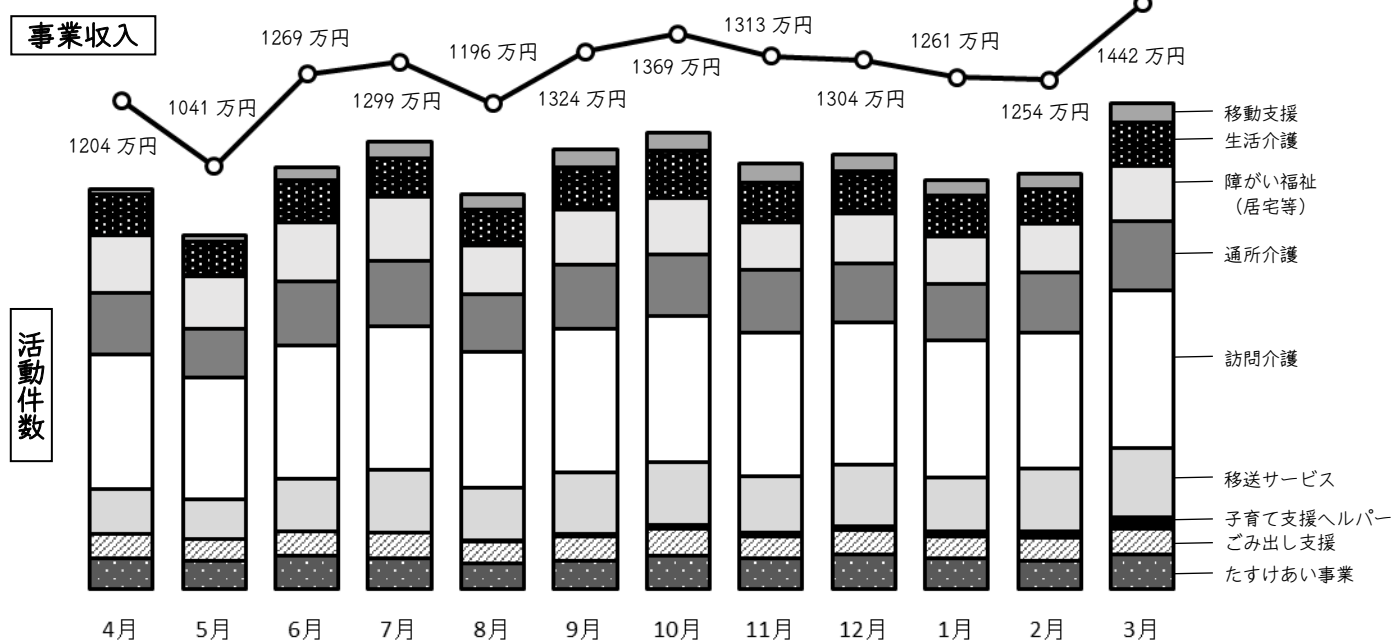
よかったら、ぜひチャンネル登録してくださいね。

ラソチャンネル



グラフでみる 2020年度

① 年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業・物品販売を除く）



1回目の緊急事態宣言が発令された際は、ほぼすべての事業で自粛傾向となったため、5月をピークに活動件数・収入とも減少した。その後、緩やかに回復していったが、移送サービスや移動支援等の外出支援は、昨年比べて少ないまま推移した。

② 3年間の活動件数と事業収入の推移（ふれあい事業・物品販売を除く）

